

当院の希望に沿う柔軟性と分かりやすい操作性で  
部門間の情報の共有化を可能とした診療データ統合管理システム



杉本理事長

**導入経緯**

**紙媒体のデジタル管理と  
時系列表示が可能なシステムの導入を検討**

CT/MRの更新時期と同時に、PACSのハードディスクが枯渇してきた為、時期を同じくしてPACSも更新する事を決定しました。ただ、今まで使用していたPACSに不満を感じていたため、次期PACSには今後を見据えた機能が搭載されていることを条件としました。

そこでまず持ち上がった希望が、紹介状や同意書などの紙媒体をデジタル化して取り込めるというものでした。しかも、ただ単純に取り込むのではなく、時系列で一括表示が行えるシステムの導入を目標としました。希望にそったシステムを探していた時、アストロステージの製品を拝見し、こちらの求めていた要望に応じてくれる機能を持っていたので導入を決めました。

**柔軟性に富んだアストロステージのシステム**

システムの選定にはアストロステージと大手メーカの二社で最後まで悩みましたが、最終的にはアストロステージを選択させていただきました。それは、型どおりにしか使用できない大手メーカのシステムよりも、柔軟性に優れたアストロステージのシステムの方が魅力的だったからです。

アストロステージの、我々の要求に沿った提案と、臨機応変な対応にも非常に好感を持ってました。今は使用者の立場になって設計されたシステムに、大変満足しています。

**導入システム**

- DICOM 画像管理システム **Nazca**
- RIS システム **NazcaRIS**
- 診療情報統合システム **STELLAR**
- ドキュメント作成&管理システム **STELLARReport**
- 部門システム **ASTRO Launcher**

**導入効果**

**部門間の垣根とデジタル化への苦手意識を  
低減してくれたシステム『STELLAR』**

STELLARを導入するまでは紙ベースで院内の運用をしていた為、他部門に関する情報の入手が困難でした。ですが、STELLARを導入してからは、部門を超えた情報の管理と共有が非常に楽になりました。

看護部からは、患者様の診療経過が時系列で簡単に見ることができるようになり、同時に他部門で診療を受けていても状況を直ぐに把握できるようになったため便利になったという声を聞きます。また、別の部門では『もっとSTELLARを活用しよう』という、システムに積極的に関わろうと言う姿勢が見られるようになりました。さらに、今までは紙をめくりながら行っていた集計作業が簡単に行えるようになったことで、院内スタッフがデジタル化によるメリットを理解してくれるようになりました。

どちらかと言うとデジタル化に抵抗があった施設でしたが、STELLARを使用するうちにシステムに対する苦手意識が薄れて行ったように思います。デジタル化への敷居の高さを低くしてくれたSTELLARを導入できて、本当に良かったと実感しています。



杉本理事長とスタッフの皆さん



**緑風会病院：システム導入時期 / Oct 2014**



昭和48年10月に開設して以来、「地域住民に信頼され選ばれる病院」を目指して、運営を続けてきました。

大阪大学附属病院救急医学講座（高度救命救急センター）ならびに整形外科教室の関連病院として、高度な医療水準と優秀なスタッフによる診療を誇りにしています。

また、杉本理事長とそのスタッフ達は、日本最初の救命救急センターの創設者で、平成14年7月23日に、NHKの人気TV番組「プロジェクトX・救命救急ER誕生」で感動的に放映されました。

所在地：大阪府大阪市平野区背戸口1-18-13

病床数：142床

診療科：内科・消化器科・神経内科・循環器科・外科・脳神経外科・整形外科・泌尿器科  
リハビリテーション科・ICU・人間ドック

**今後の期待・要望**

たくさんのレポートを使用していて、頻繁にフォームの改善要望が出てくるのですが、現状ではその都度アストロステージにお願いしています。この作業を、病院内で簡単に修正できるようにしていただけたらと思います。

**今後の方針**

タブレットを使って、院内・院外でも画像参照や写真の取り込みを行いたいと考えています。さらに、メーリングリストなどを使って情報共有や意識の統一などを行い、施設の職員みんなが情報を持ち歩ける環境の構築を今後の目標としています。

**システム構成図**

